

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
大学・エコシステム推進型
拠点都市環境整備型

完了報告書

「横浜プラットフォーム」

2022年8月31日

【総括責任者】

所属：一般社団法人横浜みなとみらい 21

役職：代表理事

氏名：坂和 伸賢

【プログラム代表者】

所属：一般社団法人横浜みなとみらい 21

役職：企画調整部 企画調整担当課長

氏名：大橋 直之

プラットフォーム名	横浜プラットフォーム
総括責任者 (所属・役職・氏名)	一般社団法人横浜みなとみらい21 代表理事 坂和 伸賢
プログラム代表者 (所属・役職・氏名)	一般社団法人横浜みなとみらい21 企画調整部 企画調整課担当課長 大橋 直之
プログラム代表補佐 (所属・役職・氏名)	一般社団法人横浜みなとみらい21 企画調整部長 古木 淳
共同機関責任者 (所属・役職・氏名)	神奈川大学 学長 兼子 良夫 関東学院大学 学長 小山 巖也 横浜国立大学 学長 梅原 出 横浜市立大学 学長 相原 道子
プログラム共同代表者 (所属・役職・氏名)	神奈川大学 副学長・工学部物質生命化学科教授 横澤 勉 関東学院大学 教授、学長補佐 岩崎 達也 横浜国立大学 副学長、地域連携推進機構長 佐土原 聡 横浜市立大学 研究推進部長 渡邊 昇
活動実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日

I. 活動目的

これまで市内大学で課題となっていた大学発ベンチャー発掘・創出支援体制の整備を All 横浜で連携して行うとともに、横浜市が進めてきた「ライフサイエンス(健康・医療)」「IoT(スマートシティ、DX、5G 等)」「ハードテック(ものづくり等)」を重点分野として定めスタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム(以下「東京コンソ」という。)におけるディープテック分野を中心としたスタートアップ拠点形成支援の役割を担う。

II. 活動の概要

オンラインプラットフォーム「All横浜 街ごとキャンパス」として、バーチャルな連携講座「YOXOカレッジ」を構築し、運営を行いプラットフォーム内外から参加した大学教職員や企業人など多くの方へ指導人材・支援人材となるための講座を実施。さらに「YOXOカレッジ」の概念について意識醸成、周知を行うことを目的に「企業内起業ワークショップ」や「横浜プラットフォーム大学対抗ビジネスプランコンテスト」を実施した。起業環境整備においては、神奈川大学のファブラボの機能を充実させ、プラットフォーム内の参画機関が利用できるスペースとして整備した。

また横浜でのスタートアップ・エコシステムの形成の取組として、事業終了後は引き続き主幹機関及び参画機関が連携して引き続き実施することとなった。

III. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに対する貢献

(1) 東京コンソの重点取組 I 「ディープテック分野のスタートアップ拠点形成支援」に貢献

「YOXOカレッジ」を構築し、産学官の境界を越えた多くの人材が講座受講することで、市内に多くの起業家育成プログラムを運営する指導・支援人材になり得る人材育成を行った。

また、横浜市が進めてきた「ライフサイエンス(健康・医療)」「IoT(スマートシティ、DX、5G 等)」「ハードテック(ものづくり等)」を重点分野として定め、GAPファンド支援においても基本的には本重点分野に関係するシーズの支援を行った。

(2) 横浜市が持つ海外との強いネットワークを生かして、グローバル拠点である東京コンソに貢献

横浜市米州事務所(ニューヨーク)のネットワークを活用し、カリフォルニア大学バークレー校(University of California, Berkeley)による海外事例を含めた指導人材育成プログラム(Berkeley Executive Instituteによるプログラム)を実施した。横浜プラットフォーム内外からも参加者があった。

(3) 横浜都心部の産学民連携により「社会課題解決に資する都市」としてのモデルケースとなる横浜都心部徒歩圏に以下が集積する強みを生かし、研究シーズと市民ニーズのマッチングプラットフォームを活発化する。また、特にみなとみらい21 地区の公園緑地やコモンスペースの多い街の特性を生かして、産学官

民が連携して社会実験の場所を設置する。そして、社会課題解決に資する都市として東京コンソに貢献する。

起業環境整備や社会実験の場として神奈川大学の「ファブラボ」の機能を充実させ、プラットフォーム内外のアカデミアや企業が利用できるスペースとして整備した。

2. 起業活動支援プログラムの運営

2-1. 構築した枠組みの成果

各大学に大学発ベンチャーの発掘支援人材が1人以上いて、継続的に発掘支援ができています。また、その発掘支援人材は、Slack等で機関、プラットフォームを越えた連携ができています。特にイノベーションデザイン・プラットフォーム(IdP)については、SlackやDemo Day等を通して支援人材(ファシリテーター等)同士で情報交換などを行った。

また、GAPファンド公募前に「大学発ベンチャー事例紹介セミナー」をオンラインで実施し、研究者の興味関心を喚起した。セミナーの中では先輩起業家からのメッセージも多く紹介され、後輩起業家に対して支援する場を提供した。また、横浜市が設置するスタートアップ成長支援拠点YOXO BOXにおいて、市内の先輩起業家に相談できる環境とともに先輩・後輩起業家が出会う場を提供した。

2-2. 研究開発課題の実績

・応募課題数、採択課題数 単位: 件

応募数	採択数
12	9

・知的財産権(出願数、登録数)

出願件数 : 国内0件、 海外0件 、登録件数 : 国内0件、 海外0件

・採択した研究開発課題の今後の事業開発の展開

単位: 件

A. STARTプロジェクト推進型2022年度起業実証支援に応募済み、もしくは2023年度以降起業実証支援に応募予定	0
B-1. 自力で起業した、もしくは起業の目途が立っている	2
B-2. 自力で起業に向けた活動を行っている、もしくは今後行う予定	1
C. 起業実証支援以外の他の事業化支援のプログラムへの応募済み、もしくは応募予定	3
D. 企業等への技術移転や共同研究に向けた活動を行っている、もしくは今後行う予定	3

3. 起業家育成プログラムを運営する指導・支援人材の育成等

3-1. 構築した枠組みの成果

支援人材として各大学1名以上且つ全体で10名を育成した。また、オンラインプラットフォーム「All横浜街ごとキャンパス」のシステムについても、「YOXOカレッジ」として構築した。「YOXOカレッジ」においては、①大学だけでなく、起業に関する専門家が講座を提供される仕組みができる、②HPIに講座を提供した講師リスト化、起業育成支援人材の見える化がなされ、横浜で多くの人が知るオンラインプラットフォームとする、③東京コンソ全体との連携もできる状態になる、という当初の目標を達成している。

3-2. 指導・支援人材の育成人数計画と実績

計画: 4人、 実績: 12人

4. 起業環境の整備における構築した枠組みの成果

2021年4月1日に神奈川大学新キャンパスに開設した「ファブラボみなとみらい」をテックハブと位置づけ、既存設備に加え、環境整備を行うとともに、次世代人材育成、テックハブとしての位置づけを意識し、一般開放に向けたルール、料金設定、フォーマット等を設定し、一般開放を行った。

また、3Dプリンター等試作機器を設置している横浜市内の産学機関のテックハブ担当者の交流会・意見交換会を実施するとともに、WEBサイト上にこうした施設の情報一元化を行った。

5.プラットフォーム内外のエコシステムの形成における構築した枠組み(全体像)、連携等の仕組み

主幹機関である一般社団法人横浜みなとみらい21を中心に、共同機関の横浜市内の4大学が連携し、日々、専用WEBアプリにて情報共有やディスカッションを行った。また、毎月1回実務者によるプラットフォーム推進会議や大学発(研究室発)ベンチャー創出支援等を実施し、プラットフォーム内の懸案事項や課題を整理し、解決法をディスカッションしながら進めた。

事業終了後は任意団体であり、主幹機関の横浜みなとみらい21が事務局を務め、共同機関4大学が参画する「横浜未来機構」において、本取組を実施していくことで、有機的な連携が持続的に可能となる仕組み構築ができています。